

《担当者名》榊原健一

【概要】

4年次の「卒業研究」における研究を遂行するために必要な基礎知識として、研究のデザイン方法について学ぶ。具体的には、言語聴覚学および医学一般におけるデータの収集方法やデータ処理（統計）および結果の解釈の方法について学ぶ。将来、大学院進学を考えている学生に選択することを勧める。

【学修目標】

研究をするための基礎的な知識、スキルを身につける。

1. 研究の科学的方法の意味を理解する。
2. 研究のデザインの立案、データ処理の方法を身につける。
3. 検査における統計的な意味を理解する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	科目の学修目標、講義日程、使用する学修管理システム、授業の進め方、評価の方法について理解する。	榊原健一
2	研究の方法	科学的方法とは何か、言語聴覚障害学における研究と臨床との関係、行動科学研究の基本、研究倫理について概要を学ぶ。研究における、変数の概念、独立性、従属性、要因と結果の意味と実例について学ぶ。	榊原健一
3 5	研究デザイン(1,2)) ・記述的研究 ・分析的研究	・症例報告、症例集積研究の手法を用いる論文を講読し、その研究手法について考察する。 ・横断的、縦断的観察研究の手法を用いる論文を講読し、その研究手法について考察する。 ・介入研究の手法を用いる論文を講読し、その研究手法について考察する。	榊原健一
6 8	研究デザイン(3,4)) ・多様な研究デザイン	・生存曲線を用いた論文を講読し、その研究手法について考察する。 ・診断法の感度と特異度を研究した論文を講読し、その研究手法について考察する。 ・メタアナリシスについて方法論を理解する。	榊原健一
9	データ処理(1)	サンプリングの方法について学ぶ。様々なバイアスと、代表的な抽出方法について学ぶ。	榊原健一
10	データ処理(2)	統計処理用のツールを計算機にインストールし、実際のデータを用いて、データの要約の方法、グラフの作り方を学ぶ。	榊原健一
11	データ処理(3)	統計におけるパラメトリックの手法と、ノンパラメトリックな手法、数学的モデル、モデルの適合、統計的検定の過誤、信頼区間について学ぶ。	榊原健一
12	データ処理(4)	具体的なデータを用いて、2群の統計量の比較を学ぶ。t-検定、カイ2乗検定などの基本を学ぶ。	榊原健一
13	データ処理(5)	具体的なデータを用いて、多変量解析の初歩を学ぶ。回帰分析、分散分析、重回帰分析、主成分分析の初歩を学ぶ。	榊原健一
14	データ分析	効果量、信頼度、メタアナリシスの基本を学ぶ。	榊原健一
15	研究のまとめ方	データ収集、データ処理、データ分析の過程を統合して、論文を執筆するための整理の方法を学ぶ。	榊原健一

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

演習課題，レポートの提出（100 %）

【教科書】

対馬栄輝 他 編 「リハビリテーション統計学」 中山書店 2014年

【参考書】

N. Schiavetti and D. E. Mets, Evaluating Research in Communicative Disorders (6th Edition), Allyn & Bacon, 2010

【学修の準備】

配付資料を精読し、講義で出された課題を処理すること。毎回40分以上の予習・復習が必要となる。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP5）国際的および地域的視野を有するリハビリテーションの専門家として活躍できる能力を身につけている。

（DP6）社会の変化や科学技術の進歩に対応できるよう、常に専門領域の検証と、積極的な自己研鑽および言語聴覚療法科学の開発を实践できる能力を身につけている。